

# 平成5年の8・6豪雨災害を学び 災害へ備える

平成5年は長雨が続き、8月を迎えても梅雨が明けない中、鹿児島市及びその近郊では、「100年に1度の大雨」と言われるほどの局地的な豪雨となりました。

監修／鹿児島市防災専門アドバイザー委員  
 地頭 園 隆（鹿児島大学農学部教授）

## 鹿児島市（鹿児島・吉田・桜島・松元・郡山地域）における被害状況

死者	47人
行方不明者	1人
重傷者	8人
軽傷者	44人
住家全壊	284棟
住家半壊	183棟
住家一部損壊	541棟
住家床上浸水	9,091棟
住家床下浸水	1,999棟

時間雨量100ミリ近い大雨が、鹿児島市北部（郡山地域）を中心に集中して降ったことで、土砂災害が多発し、甲突川や稲荷川などがはらんして市内の広い範囲が浸水しました。

がけ崩れは約700箇所、浸水家屋は1万棟を超え、死者・行方不明者は48名にのぼりました。



玉江橋歩道橋付近（下伊敷一丁目）



国道3号（小山田町）



滝之神トンネル付近（吉野町）



天文館（山之口町）



高見橋電停付近（中央町）



鹿児島市長  
 下鶴隆 央

今年は、100年に1度と言われた記録的豪雨により多くの市民の尊い生命が失われ、本市に深刻な被害をもたらした「8・6豪雨災害」から30年の節目を迎えます。

近年、豪雨災害が激甚化、頻発化し、各地で甚大な被害が発生している中、この大災害を風化させることなく教訓として後世に伝えるとともに、経験していない若い世代を含め、多くの市民の皆様とともに当時を振り返り、改めて自然災害の猛威や日ごろからの防災の備えの大切さについて考えていただくため、この啓発リーフレットを作成しました。

本市におきましては、ハード・ソフト両面から防災対策に注力し、全ての市民が安心して安全に暮らせる災害に強いまちづくりを推進してまいります。

このリーフレットが市民の皆様への防災意識の高揚を図る一助となれば幸いです。



# 1 洪水を学ぶ

■8・6豪雨災害では、甲突川、稲荷川、新川などがはん濫して、天文館や鹿児島中央駅（旧西鹿児島駅）周辺などの市内の広い範囲で浸水しました。特に、甲突川が国道3号と並走している草牟田付近では国道が2メートル以上も冠水しました。

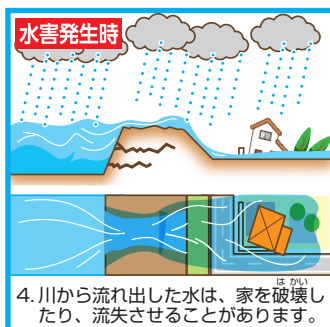
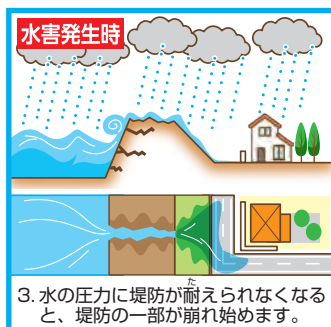
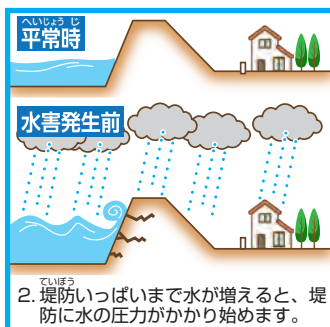
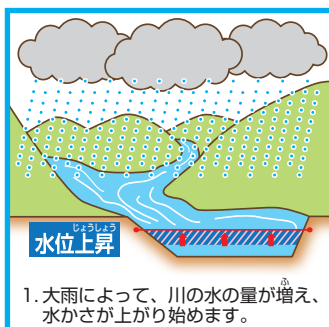


草牟田二丁目（甲突川）



清水町（稲荷川）

## ◇洪水発生仕組み



## 近年の豪雨災害（令和2年7月豪雨）

近年では、全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生しています。令和2年7月豪雨は、全国で死者84名、行方不明者2名、住家の全半壊等9,628棟、住家浸水6,971棟などの被害をもたらしました。



人吉市の浸水被害（提供：国土交通省九州地方整備局）



人吉市の浸水被害（提供：人吉市）

# 2 私たちを守る治水対策

## ■甲突川の河川改修



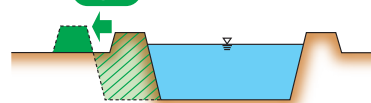
飯山橋付近（伊敷）



### ●川幅の拡幅（引堤）

川を広げて水が流れる面積を大きくしました。

引堤



### ●川底の掘り下げ（掘削）

川の底を掘って、水が流れる面積を大きくしました。

掘削





# 3 土砂災害を学ぶ

■8・6豪雨災害では、各地でがけ崩れが発生しました。中でも竜ヶ水地区では国道10号沿いのがけが4キロメートルの区間で22箇所にわたり崩壊し、通行車両1,200台やJRの列車乗車客、地域住民など約3,000名が完全に孤立しました。



吉野町 (花倉)



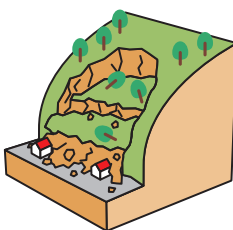
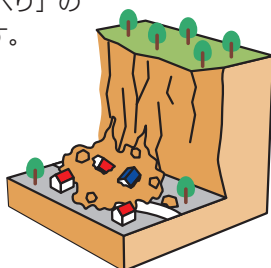
坂元町

## ◇土砂災害の主な原因

土砂災害は、大きく「急傾斜地の崩壊 (がけ崩れ)」「土石流」「地すべり」の3つに分類することができます。

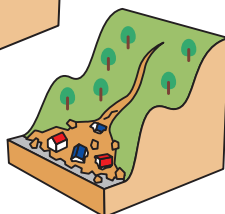
### 急傾斜地の崩壊 (がけ崩れ)

急傾斜地 (傾斜の角度30度以上で高さが5m以上のもの) において、大雨や長雨などにより雨水が地面にしみこみ、緩んだ「がけ」が突然崩れ落ちるものです。



### 地すべり

大雨や長雨などにより雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと斜面下方に動き出すものをいいます。



### 土石流

山や谷 (渓流) の土、石、木などが大雨や長雨などによって一気に下流へと押し流されるものをいいます。

## 近年の豪雨災害 (平成30年7月豪雨)

平成30年7月豪雨は、全国で死者224名、行方不明者8名、住家の全半壊等17,414棟、住家浸水30,216棟などの被害をもたらしました。



安芸郡熊野町の土砂災害 (提供: 広島市消防局)



呉市の土砂災害 (提供: 国土交通省中国地方整備局)

# 4 私たちを守る土砂災害対策

## ■竜ヶ水地区の砂防事業



工事前

### 「砂防施設」の働き

土砂や流木を受け止めて、人や家を守ります。



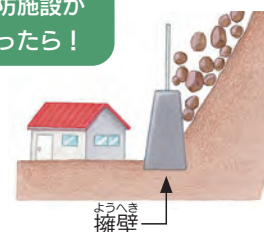
工事後

砂防施設

砂防施設が  
なかったら...



砂防施設が  
あったら!



# 5 せんもんか 専門家に学ぶ



鹿児島大学農学部  
地頭 隆 教授

## Q1 8・6豪雨災害で崩れなかったがけはこれからも崩れないの？

地頭 隆 先生

「8・6豪雨災害で崩れなかった」、「これまでも崩れたことがないから安心だ」というのは間違っています。がけ崩れというのは、2世代、3世代、4世代をかけて土層が作られ、崩壊を繰り返します。これまで壊れたことがない斜面は、逆に危険が増大している途中だと考えるべきです。

## Q2 8・6豪雨災害のような集中豪雨に備えて何を準備したらいいの？

地頭 隆 先生

自分の命は自分で守る「自助」が防災の基本です。

私たちにできる防災として、日頃からの備えと早めの避難があります。鹿児島市防災ガイドマップを使い、避難所や水・食糧などを確認するほか、天気がいいときに防災マップを見ながら実際に、避難所まで自分たちで歩いてどこが歩きやすいのか確認することも大切です。

8・6豪雨災害では、「夕方から夜にかけて雨が激しくなり、住民の避難を遅らせたこと」も、被害が拡大した要因の一つと言えます。

大雨の時には、気象情報や雨の降り方、避難情報などを把握して、早めの避難を心がけましょう。



▲災害危険区域や指定緊急避難場所を掲載した鹿児島市防災ガイドマップ（令和3年6月全世帯配布）

# 6 日頃からの備え

想定を超える力で突然襲ってくる自然災害に対して、私たちはできる限り普段から備えておく必要があります。そこで、県では河川がはん濫した場合の洪水浸水想定区域や、土砂災害発生のおそれがある箇所を土砂災害（特別）警戒区域に指定しています。鹿児島市では、これをもとにハザードマップを作成し、市民の皆様へ公表しています。まずは、「鹿児島市防災ガイドマップ」、「かごしま i マップ」で自宅がある場所に色がぬられていないか確認しましょう。



8・6豪雨災害の浸水被害区域（左図）と洪水浸水想定区域（右図）は同じような場所に色が塗られています。



洪水浸水想定区域
5.0m以上
3.0m～5.0m未満
0.5m～3.0m未満
0.5m未満



パソコンから

かごしま i マップ ひびく検索



スマートフォンから



- かごしま i マップでは、洪水浸水想定区域（想定最大規模（1000年超に1回を上回る降雨））のほか、8・6豪雨災害の浸水被害区域を確認することができます。
- 日頃からの備えを学ぶため、過去の災害の映像やアニメーション等を用いて防災ガイドマップを分かりやすく解説した動画を市ホームページに掲載するとともに、市政出前トークでの活用やDVDの貸し出しを行っています。

## 最後に

鹿児島市にとって8・6豪雨災害は、多くの犠牲と教訓を生んだ災害です。このリーフレットで8・6豪雨災害について学び、後世に継承し、また、鹿児島市防災ガイドマップ等とるべき避難行動を確認するなど、いつ起こるかわからない災害に備えましょう。

お問い合わせ

鹿児島市 危機管理局 危機管理課

令和5年5月発行

TEL:099-216-1213

FAX:099-226-0748

